

ユーカリ造林と挿木試験について

宮崎県庁 藤川八松

ユーカリ樹の植栽については古くから風致木として本数は少ないが植栽されて来た27年8月東京都ローヤル水産会社々長月本二郎氏がパルプ原木として造林を計画されてより一躍時代の寵児として浮び上つたが外国樹種の内でも養苗、植栽に相当の研究を要するため現在林野庁ではスギの適地を設け各所で試験造林を実施している。

私は以前から中位以下の林地に造林してなんとか成林出来ないか、又苗木は非常に丁寧に取扱われているがこれも針葉樹の苗木の様に簡易に取扱ひ然も活着がよい様に出来ないかと思ひ、この度拙ない試験を実施したものを報告する。

① 造林

造林地は幸にも延岡市役所農林課林務係長志賀氏の御協力を得て市有地の今山公園（標高約80m今山神社、大師寺がある）の一部に面積約一反歩余、傾斜35°方位東面と南面（中央に凹地のある羊歯、小雑木の散生地）の土壌Bc型に属する一斜面を選定した。

地持は植栽10日前に全刈して羊歯類は中央の凹地に落し込み、植栽は3月27日延岡市の植樹祭行事として苗木は日向市の綾部迎洋園に依頼し、E. globulus 150本、E. glandis 150本を早朝堀取し魚箱に入れトラック輸送にて午前10時着、午後1時より市役所、営林署、専売公社、農林事務所の林務関係職員にて実施された。その方法は植栽距離2K×2K両品種を列状混交とする植穴は1尺5寸～2尺深さ1尺～1尺5寸として充分土塊を柔らかくして中央に深さ2cm程度やや深目に植付けた。本数は植栽距離の関係上予定数の半分以下となつた。その本数はE. glandis 80本、苗高8～10cm、E. globulus 49本、苗高10～18cm、E. rostrata 1本（自宅養成のものをあとより植栽）苗高54cm、苗木はglobulusは1本宛根部を径4cm程度の泥ダンゴをつけ、更にこれを硫酸紙にて包み藁にてしばるglandisは10本1束として根部に泥をつけ地上部は8～10cmに剪定した。何れも苗木としては下のものであつた。その後5月中旬活着調査をしたがハッキリしないので6月20日から5日間下刈、鋤入をすると同時に活着調査をした。その成績はE. glandis 59本、E. globulus 49本活着、植付本数計129本活着本数計97本歩合74.9%、第2回調査は11月2日実施、第1回調査との樹高比較は第1表の通り尙7月25.6日の両日

自宅の庭に養成中のE. robusta 苗木（苗高12～15cm）27本を朝堀取つて多少根部に土をつけ持参し補植した。その成績は第1表右側のもので内1本は台風の影響を受けた。11月2日調査の際台風被害を検討し

第1表 樹高別本数

品 種	E. glandis		E. globulus		E. robusta
	調査月日	6月24日と11月2日との樹高差	調査月日	6月24日と11月2日との樹高差	
樹 高	11.2		11.2		11.2
cm	本	本	本	本	本
2～10	2	5	1	1	
11～20	4	4	1	7	1
21～30	4	17	6	9	6
31～40	17	13	6	4	4
41～50	17	9	8	7	8
51～60	4	1	5	1	5
63～70	1		4	1	
75～80			3		2
計	49	49	33	30	26

だが海岸より約2軒位の独立山であるので相当風当たりが強かつたのに被害程度が少なかつたのは下刈がおくれ台風時に周囲に高さ80cm程度の茅竹等が密生していたからで不幸中の幸であつた。然しglobulusの中1本折損2本倒伏せるものあり、glandisにはその被害が認められなかつた。特にglobulusの根元に径3cm、深さ3cm位の丁度蟻地獄の穴の様なものが出来ていて台風時に相当吹廻されたことを立証している。11月中は降雨がないため、植穴はカンカンに固まり地下3寸位は全然湿気がないので植穴に敷草の必要を認めた。今後の施業としては来年5月頃植穴を径1m位に掘起し、雑草その他腐植し易いものをその中に埋込み堆肥したいと思ふ。

次に自宅のせまい庭で実施したE. robustaの挿木試験について報告する。

② 挿木

挿穂は28年6月16日約1,000粒を播種し出来た苗木を廻々に配付した残りの56本である。日照時間の少ないせまい庭なので満足な結果は出なかつたが母木は苗高30～45cmの小苗でこれの主幹枝を長さ10～15cm（1本から2～3本挿穂をとる）に剪定し、葉は片方つけて長さの2/3を地中に垂直に挿す。2ヶ月後の8月

第 2 表 E. robusta の挿木活着並発根調 (196本に付)

○挿穂の種類 (部位別)

上～主幹, 枝の採穂した一番下のもので一番太いし組織も固い。
 中～ 〳 中間のもので組織は上よりやや軟弱。
 下～ 〳 先端で生長点をつけたもので一番軟い。

○母木本数56本～挿穂本数196本

○施行月日 6月20日 調査月日 8月20日

○活着並発根数

区分	挿付本数	活着本数	活着率	発根本数	発根率
上	59	24	40%	24	100%
中	40	0	0	0	0
下	97	30	30%	27	90%

カルスは小さい。発根数は1本当平均10本位, 長さ 1~1.5cm 位

20日に転勤のため全部掘取りその活着発根状態を調べた結果は第2表の通り。

大体以上の様な結果となつたが, 再度実施してよい結果を期待したい。いう迄もなくユーカリタンニアカシア等の移植成績の芳ばしくないその最大原因は地上部の組織が軟弱で水分の蒸発が烈しい即ち乾燥し易いこと。根部に細根が少ない直根性であるため活着が悪いことが二大欠点と思われるがこれを漸次改良してゆけば近い将来立派な造林地も出来るものと確信している。それには一昨年来アカシア, モリシマについて福岡県林業試験場で研究発表されている地上部の適度

の剪定と根部の根切り法がよい方法でこれをユーカリ樹にも応用出来ると思う。それで3月採種, 6月頃適度の剪定を行い, 剪定せるものは挿穂に利用し根部は8月頃根切を行い1本の苗木より4~5本の苗木を然も活着のよいものを作りたい。

globulus 以外のものなら大体適用出来ると思うし globulus でも4, 5年生のものから採穂すれば発根可能と思われる。

(最後に之が実施に御協力下された延岡市役所林務係長志賀氏, 日本ユーカリ研究所古久保氏に御礼を申す。)

メ タ セ コ イ ヤ の 挿 木 に つ い て

佐賀県林業試験場 小 谷 内 正 一

現在メタセコイヤは挿木に依つて増やされつつあるが, 実際これを行つて見た経験では, 次の諸点に注意して実施した方が無難な様である。

第1 苗圃内か若くはその近辺に採穂木の設置が望ましい。特に少ない母樹から多く増やすためには目下のところ新芽をも利用して挿付せねばならないので, 採穂木は是非設けた方がよい。

第2 新芽の挿付, 所謂当年伸長した枝葉を採つて挿付するには, 4月末から6月初め迄の間が良い。尙この際に, 採つた挿穂が直ぐしおれ易いので, 小雨か本曇のち雨という天候の日を選んで挿付すれば一層安全である。

第3 挿穂の切口を一旦鋭利な刃物で切り直し, 粘土汁処理に依つて挿付すると良い。又は粘土汁を予め準備して穂の採取と同時にこれに浸漬の上,

挿付を行つても結構である。

第4 挿穂 (当年伸長した枝葉) の軟かい先端を僅か切り詰めると, 取扱いが安全であり, 活着率もわりあい良い様である。

第5 挿付してから日覆と灌水には充分注意せねばならぬ。就中挿付して数週間は灌水に絶えず注意し, その励行が肝要である。

以上の事実は, 次表に掲げる昭和28. 29年度中に新芽を採つて挿木した成績に基くものであるが, 更にその要領でも実験を試み, 一層メタセコイヤ増殖普及に資し度いと思う。

摘 要

(イ) 挿穂は採つてから乾燥には充分予防した積りであるが, 日時を過るに従い, 5でも分る通り活着